



令和7年

おおぎみこども園

要覧



大宜味村立おおぎみこども園

☎905-1311

大宜味村字塩屋1306番87

TEL : (0980) 44-2500

FAX : (0980) 44-2502

Mail : youtien@ogimi-school.ed.jp

目 次

I	概要	(頁)
1	園の沿革	1
2	園の概要	1
3	こども園の状況と学級編成	2
4	園内配置図	3
	※3 頁については防犯上の観点から非公表とする	
II	園経営	
1	教育・保育目標	4
2	目指す教育・保育像	4
3	今年度の重点目標	5
III	教育・保育課程	
1	日課表 (1)保育班	6
	(2)幼児班	6
2	一日の生活の流れにおける援助・指導 (1)保育班	7
	(2)幼児班	8
3	年間行事計画	9
4	異年齢交流年間指導計画	10
IV	おおぎみこども園危機管理マニュアル	
1	危機管理の基本方針	12
2	令和7年度 防災訓練計画	13
V	子育ての支援計画	
※	在園児の保護者に対する子育ての支援	14
※	地域の保護者に対する子育ての支援	14
※	子育ての支援計画(保育班 在園児向け)	15
※	子育ての支援計画(幼児班 在園児向け)	17
※	子育ての支援計画(地域向け)	18

I 概要

1 園の沿革

令和2年	4月	1日	幼保連携型おおぎみ認定こども園開園式 村内にあった2保育所(喜如嘉、塩屋)1幼稚園(大宜味)を 一体化して開園 第1回入園式
令和2年	4月	5日	開園式テープカット
令和3年	3月16日		第1回修了式(5歳児)
	4月	1日	第2回入園式及び進級式
令和4年	3月16日		第2回修了式(5歳児)
	4月	1日	第3回入園式及び進級式
令和5年	3月16日		第3回修了式(5歳児:23名)
	4月	3日	第4回入園式及び進級式
令和6年	3月15日		第4回修了式(5歳児:22名)
	4月	1日	第5回進級式・1学期始業式(幼児班)・入園式
令和7年	3月17日		第5回修了式(5歳児:18名)
	4月	1日	第6回進級式・1学期始業式(幼児班)・入園式

2 園の概要

本園は北部の中心名護から約20km離れた北東に位置した国道58号線沿いにあり前方に紺碧の東シナ海、後方には緑濃き山々に囲まれ、自然豊かな環境にある。本園の所在地である「結の浜」地区は、大保ダム建設に伴う採掘土砂によって造成された埋め立て地で本村のほぼ中央に位置している。園付近は大宜味小、大宜味中学校、村立診療所、村立歯科診療所があり、近年は住宅や商業施設も増えつつある。村には令和2年3月末まで2つの保育所(喜如嘉、塩屋)と1つの幼稚園(大宜味)があり、それぞれで乳幼児教育を担っていた。

幼保一体化の動きは以前からあったが、平成29年に本格的に子育て支援室や準備委員会の組織が立ち上げられ、子ども園開園に向けた準備を計画的に実施し、令和2年4月、2保育所と1幼稚園が一体化した幼保連携型認定こども園「大宜味村立おおぎみこども園」として開園し、今年度で6年目を迎える。

(1) 施設構造 鉄筋コンクリート造

(2) 規模 敷地面積9,723㎡(うち園庭2,255㎡)
延床面積1,100㎡

(3) 受入年齢 生後6ヶ月～小学校就学前まで

(4) 利用定員

1号認定園児	2号認定園児	3号認定園児	
		満1歳以上3歳未満園児	満1歳に満たない園児
7人	67人	35人	11人

(5) 開園時間 7:30～18:30

	7:30	9:00	13:30	18:30
【1号認定】	早朝預かり	標準教育時間	預かり保育(2号認定園児)	

※早朝預かりは延長保育となる

	7:30	8:30	16:30	18:30
【2・3号認定】	保 育 標 準 時 間			
	延長保育	短 時 間 保 育	延長保育	

※2号認定園児は保育時間の中に4時間の教育時間が入る。

～3つの認定区分について～

1号認定・・・満3歳以上で教育保育時間(4時間)を希望する者

2号認定・・・満3歳以上で「保育の必要な事由」に該当し保育(標準時間・短時間)を希望する者

3号認定・・・満3歳未満で「保育の必要な事由」に該当し保育(標準時間・短時間)を希望する者

3 こども園の状況と学級編成

(1) 職員及び学級編成

令和7年4月1日現在

年 齢	組 名	担 任・支 援 員・預かり担 当	園 児 数			
			男児	女児	合計	
0歳児	たんぽぽ	担任1名、支援員1名	1	1	2	
1歳児	すみれ	担任2名、支援員1名、（補助員1名）	5	6	11	
2歳児	ちゅうりっぷ	担任2名、支援員1名、補助員2名	6	6	12	
3歳児	ひまわり	担任1名、預かり1名、補助員1名	9	10	19	
4歳児	ゆうな	担任1名、預かり1名、補助員1名	14	10	24	
5歳児	でいご	担任1名、預かり1名、補助員1名	11	7	18	
合 計			46	40	86	
園 長		専任1名				
主幹教諭		2名	フリー教諭			1名
看護師（養護教諭）		専任1名				
栄養士		専任1名				
事務員		専任1名				
保育補助・預かり・ 代替え		（再掲12名）、保育補助1名、保育教諭1名				
調理員		4名				
調理員代替		2名				
バス運転手(兼：用務員)		1名				
ALT（英語指導助手）		1名 ※小中学校兼務				

Ⅱ 園経営

1 教育・保育目標

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である。認定こども園法に規定する目標の達成を目指しつつ、一人一人の園児に生きる力の基礎となる心身ともに健やかな育成を目指して、次の教育・保育目標を設定する。

げんきいっぱい おもいやりいっぱい かがやきいっぱい おおきみっこ

- げんきいっぱい(明るく健康で自分の力でやりぬこうとする気持ちをもつ)
- おもいやりいっぱい(人とのつながりを大切にし、やさしく思いやりの心をもつ)
- かがやきいっぱい(まわりのものに関心をよせ、自分の思いや考えを豊かに表現する)

2 目指す教育・保育像

(1) 目指す“こども園”像

- ①安全・安心なこども園(子どもの命を大切にする)
- ②楽しいこども園(園児一人一人が元気いっぱい活動できる楽しい園)
- ③きれいなこども園(明るく清潔で、落ち着きのある園)
- ④個に応じた支援のできるこども園(一人一人の子どもをよく理解し、一人一人の子どもとていねいに関わり心身共に健康な子どもを育てる)
- ⑤保護者、地域に開かれたこども園(家庭・地域との連携を深め、共に子どもを育てる)

(2) 目指す子ども像

○げんきいっぱい(明るさと強さをはぐくむ)

- ・明るく健康な子ども
- ・自分の力でやりぬこうとする子ども

○おもいやりいっぱい(情緒の豊かさ、やさしさ、関わる力をはぐくむ)

- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・やさしく思いやりのある子ども

○かがやきいっぱい(考える力、チャレンジ精神、創造性をはぐくむ)

- ・まわりのものに関心をよせ、自分の発見や考えを表現する子ども
- ・自分の思いや考えをいろいろな方法で豊かに表現する子ども

(3) 目指す保育教諭像

- ①一人一人を大事にし、共感できる教諭
- ②使命感に燃え、成長する教諭
- ③和を大切にし、園児・保護者・地域から信頼される教諭

(4) 目指す保護者像(園の願い)

- ①子どもとの会話を大切にする保護者
- ②育ちをうながし、しつけをする保護者
- ③保護者会活動、ボランティア活動に協力する保護者
- ④こども園、地域と交流する保護者

3 今年度の重点目標

- (1) 明るく健康で自分の力でやりぬこうとする気持ちをもつ
- (2) 人とのつながりを大切にし、やさしく思いやりの心をもつ
- (3) まわりのものに関心をよせ、自分の思いや考えを豊かに表現する

【重点目標の具体的な実践】

実践内容	(1) 明るく健康で自分の力でやりぬこうとする気持ちをもつ		
	乳 児	1 歳以上 3 歳未満	3 歳以上
	- 発達段階に応じて、はう、立つ、歩くなど十分に体を動かす - 清潔になることの心地よさを感じる	- 全身を使って思いっきり遊ぶ - 衣服の着脱が自分でできる - きまりや約束事の大切さを知り守ろうとする心をもつ	- 進んで遊び体を十分動かす - 物事をねばり強くやりとげようという強い心をもつ - 使ったものは決まった場所へ片付ける
	(2) 人とのつながりを大切にし、やさしく思いやりの心をもつ		
	- 身近な人と関わりを深め、親しみの気持ちを表す - 身近な人と共に過ごす喜びを味わう	- 身近な人に親しみ感をもち、進んであいさつをする。 - 友達と関わって遊ぶ	- 様々な場に応じたあいさつを進んでする - 友だちのよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう - 共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりして遊ぶ
容	(3) まわりのものに関心をよせ、自分の思いや考えを豊かに表現する		
	- 身の回りの様々な物に興味・関心をもつ - 身体 of 諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、身体の動きで表現する	- 身近な物や遊具に関心をもちそれを使って遊びを楽しむ - 自分の思いを言葉で伝えたり友達の話の聞いたりすることを通して言葉による伝え合いができる	- 身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ - 友達などの考えに触れて、新しい考えを生み出す喜びを味わう

Ⅲ 教育・保育課程

1 日課表 (1) 保育班

時 刻	内 容	○乳児の活動		◎教師の動態
		0 歳児	1・2 歳児	
7:30	登園受入(標準時間保育児)	・検温 ○教諭との触れ合い	・検温 合同保育 ○自由遊び クラス保育 ☆室内で遊ぶ	◎部屋の空気の入れ替えをする。 ◎室内外の安全点検をする
8:20	登園受入(短時間保育児) 自由活動	・あそび 身体を使って おもちゃ・遊具で ・うた ・外気にふれる ○おやつ	・おもちゃ・ままごと・絵を描く、製作遊び、見立て遊び等 ○おやつ ☆戸外で遊ぶ ・散歩・砂遊び・運動 ・遊具遊び・水遊び等	◎あいさつをかわす(アイコンタクト・言葉) ◎一人一人を視診する(検温等) ◎一人一人の遊びにあたる。 ※安全に遊べるように、遊び場や道具の点検、個々への援助を行う。
11:00	給食を食べる	○絵本を聞く ○食事 ○食後の歯磨きをする	○絵本を聞く	・一緒に歯磨きをする。磨き残しがないようにチェックする ・絵本や紙芝居を読む。
12:00		○午睡	○食事 ○食後の歯磨きをする ○午睡	・一人一人の様子を定期的に観察する(午睡、睡眠チェック)
15:00		○おやつ	○おやつ	・午後保育(ゆったりした活動) ※状況によっては、遊戯室での合同保育も可能とする
16:30	降園(短時間保育)	○順次降園する	延長保育開始	・あいさつをして見送る。
18:30	降園	○保育短時間園児 ○保育標準時間園児		

(2) 幼児班

時 刻	内 容	○幼児の活動	◎教師の動態
7:30	登園受入	2号認定標準保育園児は早朝保育(合同)	◎部屋の空気の入れ替えをする
8:00	通園バス迎え出発		◎室内外の安全点検をする。
8:20	登園受入(保育短時間、1号認定)	○教師や友達とあいさつを交わす ○朝の活動をする ・出席ノートにシールを貼る。 ・所持品の始末をする。 ・室内の軽い掃除をする。 ・花壇や花鉢の水やりをする。	◎バス当番は通園バスに乗る ◎あいさつができるように援助する ◎園児一人一人を視診する。 ◎年齢に応じて役割を分担する。 ・所持品の始末の確認をする。
8:45	通園バス到着 自ら取り組む活動	○バスでの登園組も各自朝の活動をする。	
9:00	教育課程に基づく活動 ☆グループ活動 ☆全体活動	☆室内で遊ぶ。 粘土遊び・マルチパネカラー積木・製作遊び・ままごと・絵を描く等 ☆戸外で遊ぶ。 砂遊び・オニごっこ・ボール遊び 固定遊具等	◎一人一人の園児の遊びにあたる。 ※安全に遊べるように、遊び場や遊具の点検や言葉かけを行う。
10:30	・片づけ ・学級の活動	○片づけをする。 ○先生のまわりで ・手遊びをする。 ・絵本や紙芝居を見る。 ・今日の振り返り ・明日の話や安全指導をする。 ○当番は準備をする。	◎園児と一緒に片づけをする。
11:30	・給食を食べる(3歳児)	○給食を食べる。	・絵本や紙芝居を読む。 ・一人一人の園児の話を聞く。 ・幼児と確認しながら、話をする。 ・食事の準備をし、配膳をする。 ・食育計画に沿って食育指導をする。 ・点検磨きを行い、磨き残しがないようにチェックする。
11:45	・給食を食べる。(4・5歳児)	○食後の歯磨きをする。 ○担任と絵本を借りる(4・5歳児)	
13:30	・降園(1号認定)	○降園する ・あいさつを交わして降園する	◎預かり担当、午後担当教諭と引継ぎをする。
16:30	・絵本の貸し出し ・降園(2号認定)	・2号認定園児は預かり保育 ○保護者と絵本を借りる(3歳児)	・1号認定の子へあいさつをして見送る。当番は通園バスに乗る。
18:30	・全園児降園	・順次降園 保育短時間園児延長	・あいさつをして見送る。

2 一日の生活の流れにおける援助・指導

(1) 保育班(援助)

流 れ	0歳児内容	1・2歳児内容	環境構成及び留意点
登 園	○あいさつをする (アイコンタクト)	○あいさつをする ○持ち物の始末をする	・登園してすぐに行われる活動なので笑顔で接し、情緒の安定を図る。 ・名前を呼ぶ ・一人一人を視診する。(体温を測る) ・話しかけながら一緒に持ち物を整理する
触れ合 い 遊び おやつ	○授乳、沐浴 ○ふれあい遊びをする ・歌を歌う ・身体を動かす簡単な手遊び等をする ○おやつを食べる ○外気に触れる ○汗の処理をする	○遊びに必要な会話を 交わす ○おもちゃで遊ぶ ○必要に応じて排便を する ○おやつを食べる ○園庭を散歩する ○汗をかいたら処理す る ○使ったものの片付け をする	・教師の動きや言葉かけが重要な役割を果たすので子どもと生活する中で園児に寄り添い言葉かけや援助の方法を工夫する ・遊び道具は目の付きやすい、取りやすい位置に置く。 ・時期や発達に応じて、環境の構成、再構成ができるよう遊び道具等は必要に応じて精選したり整理したりしておく。 ・子ども一人一人の状態を随時把握する。 ・使った用具を一緒に戻し、片付ける習慣をつける。(発達段階に応じて徐々に自分で片づけようとする気持ちを育てる) ・片づける場所や入れ物は固定しておく。
食事	○手をきれいにする ○「いただきます」「ごちそうさま」を一緒に言う ○はみがきをする	○手を洗う ○「いただきます」「ごちそうさま」を言う ○はみがきをする	・一人一人にあった食事の量を配膳する。 ・食材の話をし、食に興味、関心をもたせる。 ・一緒にみがく、点検をする。
絵本を 見る	○絵本の読み聞かせを聞く	○絵本の読み聞かせを 聞く ○先生のお話を聞く	・園児の興味や発達の時期、季節を考慮に入れた絵本、話の内容を精選する。
午 睡 おやつ	○静かな音楽をききながら昼寝をする	○静かな音楽をききながら昼寝をする	・寝やすいように季節に応じて環境を整える。(室温、風通し等) ・子ども一人一人の状態を随時把握する。 ・食べ終わった後、はみがきをする。
触れ合 い 絵本を 見る	○おもちゃで遊ぶ ○絵本の読み聞かせを 聞く	○おもちゃで遊ぶ ○絵本の読み聞かせを 聞く	・ゆったりと過ごせるような遊び工夫をする。 ・ゆったりと落ち着いて聞けるような内容を精選する。
降 園	○帰りの準備をする ○「さようなら」のあいさつをする(アイコンタクト)	○帰りの準備を先生と 一緒にする ○「さようなら」とあ いさつをする	・「明日も笑顔で会おうね」という気持ちでわかれのあいさつをする。 ・延長保育担当と連携をとる。

(2) 幼児班(指導)

1日の流れ	指導の場面（指導内容）	環境構成及び指導上の留意点
登園	○あいさつをする。 ○持ち物の始末をする。 ・靴は靴箱に入れ、上履きをはく。 ・出席ノートにシールを貼る。 ・かばんをしまう。	・登園してすぐに行われる活動なので、情緒の安定を図る。 ・教師間で挨拶を交わす姿を見せ、挨拶を促していく。（見本を示し、励ましながら習慣化を図る） ・園児によって育ち方が違うので、個に応じて柔軟に対応する。 ・発達の程度により、見守ったり励ましたり、付き添ったりし、必要に応じて援助をする。 ・園児一人一人を視診する(健康観察)
遊び	○遊びに必要な会話を交わす。 ○動植物の世話をする。 ○必要に応じて排泄がきちんとできる。 ○汗をかいたら拭く。 ○活動の場を整える。	・教師の動きや言葉かけが重要な役割を果たすので、子どもと生活する中で、園児の中に入り、言葉かけや援助の方法を工夫する。 ・「何しているの？」ではなく「一緒に入れて」と言う子どもたちに受け入れられやすい。 ・遊具にあった入れ物や、素材は取りやすい位置に置く。 ・時期や発達において、環境の構成、再構成ができるように教材は必要に応じて、精選したり整理したりしておく。 ・子ども一人一人の状態を随時把握する。
片づけ	○使った道具を元の場所に戻す。 ○友だちと協力して片づける。 ○次の活動を考慮に入れて、場を整理する。	・片づける場所、入れ物は表示しておく。 ・園児の視線を考慮に入れた片づけ場所、必要な場所に必要入れ物を設置することが大切である。 ・初めは教師が率先して片づけ、徐々に自分の使った物は自分で片づけるように促す。 ・「片づけてね」と言うより、「きれいにしてね」と声をかけてあげると、「進んで片づける」→「片づけたら気持ちがいいね」の意欲が心情につながる。
・絵本を見る ・先生の話 を聞く（学級活動）	○座って絵本の読み聞かせを聞く。 ○友だちと一緒に先生の話聞く。 ○一日の振り返りをする。	・園児の興味や発達の時期を考慮に入れた絵本、話の内容を精選する。 ・時には園児のリクエストを取り上げ、絵本やお話を聞かせ、聞く態度や意欲を育てるようにする。 ・自分の思いや考えが言えるように援助する。
食事	○手を洗う。 ○当番は机を拭き、給食室から給食を運ぶ。（5歳児のみ） ○各自配膳された給食を取り、全員がそろそろまで待つ。 ○「いただきます」「ごちそうさま」と挨拶をする。 ○好き嫌いせず食べ片づけをする。 ○歯みがきをする。	・石けんを用意しておく。 ・当番と一緒に給食室から給食を運ぶ。（5歳児のみ） ・一人一人に合った給食の量を配膳する。 ・和やかな雰囲気を演出し、好き嫌いせず食べることは、健康につながることに気付かせる。 ・給食日より等を活用し、食に興味、関心をもたせる ・片づけ方や周囲の迷惑にならない食事マナーなどを指導する。 ・食後は、歯みがきをして口の中を清潔にするように指導する。
降園	○帰りの準備をする。 （自分の所持品をかばんに入れる） ○「さようなら」と挨拶をする。 ○交通ルールを守って降園する。	・「明日も笑顔で会おうね」という気持ちで別れ、「おじぎをして」挨拶をする指導が効果的な場面なので、修了までにどの子もおじぎをして「さようなら」ができるように意識して指導する。 ・預かり担当と連携をとる。

3 年間行事計画

月	園 行 事	保護者支援・地域連携
4	進級式・一学期始業式・入園式 身体計測(全園児) 避難訓練(基礎訓練) 尿・ぎょう虫検査(全園児) 学級懇談会(全学級)	こいのぼり掲揚式
5	身体計測(保育班) 歯科検診 耳鼻科検診(4・5歳児) 交通安全教室 避難訓練(火災) 春の遠足	保護者会総会・作業(全)
6	身体計測(保育班) 内科検診 親子ブラッシング指導 弁当会 避難訓練(火災・消火) 里帰り交流(小1)	保育参観日(園開放)
7	身体計測(保育班) 避難訓練(不審者侵入・消火) プール遊び 学級懇談会(全) 幼小連携教育(交流活動・5年生)一学期終業式(幼児班)	七夕まつり
8	身体計測(保育班) 二学期始業式(幼児班) 避難訓練(火災・消火)	
9	身体計測(全園児) 避難訓練(地震・消火) 保育参観日(園開放) 弁当会	世代間交流 育児講座
10	身体計測(保育班) 運動会 尿検査 避難訓練(火災・消火) 弁当会 親子ものづくり体験 交流体験(2年生)	
11	身体計測(保育班) 避難訓練(地震・津波対応) 秋の遠足 避難訓練(火災・消火) 感謝会 歯科検診(全園児) 幼小連携教育(交流活動・1年生)	おおぎみ展
12	生活発表会 学級保護者会 お楽しみ会 避難訓練(不審者侵入・消火) 二学期終業式(幼児班)	
1	三学期始業式(幼児班) 身体計測(全) 給食体験(5年生) 避難訓練(火災・消火) 内科検診(全園児) 弁当会(3/4/5歳児)	保育参観日(園開放) 育児講座
2	個人面談 身体計測(保育班) 避難訓練(火災・消火) お別れ遠足 幼小連携教育小学校体験入学(5歳児)	新入園児入園説明会
3	身体計測(保育班) 誕生会 修了式(5歳児) 避難訓練(火災・消火) 新入園児面談 終了式(0～4歳児)	幼児班進級保護者説明会

4 異年齢交流年間指導計画

おおきみこども園

月	4・5月				6・7月	
活動例	探検をしよう	こいのぼりについて知る	虫さがしをしよう	泥だんごを作ろう	七夕の笹を作ろう	野菜を育てよう
ねらい	○新しい園に関心をもつ ○発見を楽しんだり、遊びを考え出したりする	○日本の文化・伝統に触れ、親しみをもち ○こいのぼりや5月人形などを通して、子どもの日の由来を知る ○協力して大きなこいのぼりを作り遊戯室に飾る。	○生き物の観察・飼育を通して、命の大切を感じる。 ○気の合うもの同士で生き物探しをする。 ○生き物について調べたりする	○物の性質や仕組みを感じ取り、気づいたり、気づいたりする	○日本の文化・伝統に触れ親しみをもち ○七夕の由来を知る。 ○笹の葉に飾りつけをする ○願い事を短冊にかく ○乳児クラスの分も手分けして作る。	○野菜への興味と、栽培活動を通して豊かな心と食の大切さを育む
内容	○施設の紹介ができるようにする。 ○どこで、どんな遊びができるか話し合ったり、考えたりする。 ○マップに書き込みをする。	○文化の由来を伝えたり、一緒に調べたり、作ったりするなど協同作業者となる。 ・こいのぼり ・こいのぼりに関する絵本 ・写真、雑誌	○「命」が感じられるように観察させる。 ○見つけた生き物を探ねる。 ○育て方を一緒に考える。 ・飼育かご ・ルーパー ・えさ ・図鑑等	○活動する中で、形、色、手触り、質感などに気づくようにする。 ○目的の実現に向けて見通しをもち、やり直しをしながら作ろうとする。	○七タの由来を知る。 ○笹の葉に飾りつけをする ○願い事を短冊にかく ○乳児クラスの分も手分けして作る。	○植物の育て方を考え、継続的に世話することの大切さを知る。 ○自ら育てた野菜を美味しくいただき、育てる楽しさを知る。
環境構成	○これから楽しく遊べる場所を発見できるように、適度に声をかけていく。 ○探検隊を作る年長リーダー ・子ども園マップ(拡大) ・マジック	・こいのぼり ・こいのぼりに関する絵本 ・写真、雑誌	・「命」が感じられるように観察させる。 ・見つけた生き物を探ねる。 ・育て方を一緒に考える。 ・飼育かご ・ルーパー ・えさ ・図鑑等	○あきらめずに何度も挑戦する中で、子どもと共通の目標をもち、考えや悩みを共有する。 ・砂粒の大きさの異なる土 ・水 ・バケツ ・新聞紙	○文化の由来を伝えたり、一緒に調べたり、作ったりするなど協同作業者となる。 ・笹 ・色紙 ・短冊 ・マジック	○子どもと感動を共有し(芽が出る、実がなる等)継続することの大切さを伝える。 ・土 ・肥料 ・プランター ・種 ・苗

月	8・9月				10・11月	
活動例	水遊び・船づくり	夏祭りをしよう	野菜を食べよう(食育)	ハローウィンをしよう	わくわくランドで遊ぼう	
ねらい	○水遊びを楽しみながら興味・関心を広げ、物づくりに挑戦する	○経験したことや考えたことを表現しようとする ○文字や数字に興味をもつ	○野菜の収穫を喜び、様々な調理法を通して食への興味を深める ○収穫の体験をとおして、食への興味を深める。 ○様々な調理法を調べる中で、食への期待感を高める。	○異文化に触れ、外国や祭りにについて探求を深める	○小学生のまねをすることを楽しむ ○いろいろなゲームを工夫して作る ○文字・数字への関心を高める	
内容	○水遊びの中で様々な材料を水に浮かべ経験をする。 ○様々な素材を使って、実際に船を作ろうとする。 ○水の性質、風の力を知る。	○大宜味祭りの経験を伝え合いイメー ジを実現しようとする(エイサー・花火・屋台等) ○協力してごっこ遊びをする。 ○お金のやり取りや数・量の概念に興味をもつ	○収穫の体験をとおして、食への興味を深める。 ○様々な調理法を調べる中で、食への期待感を高める。	○絵本や写真で調べる中で「～になりたい」と仮装へのイメージや期待感をもつ(年長組) ○必要な物や楽しみ方を友だちと話し合いながら進めていく。 ○ハローウィンパーティをする(招待)	○年長組が経験したことを広げ、自分たちでもいろいろなゲームを作ってみる。 ○ゲームは年長組で作る。 ○全園児で楽しむ。	
環境構成	○子どもの気づきや発見を認め、工夫するためのヒントや材料を提供する。 ・発泡スチロール ・段ボール ・絵本 ・ペットボトル ・接着剤	○夏祭りの中で感じたことや興味をもったことを表現できるように支え、さらに展開しようとしている姿を認める。 ・画用紙 ・新聞紙 ・折り紙 ・紙粘土 ・パップ ・トレー ・牛乳パック ・はさみ ・エイサー曲等	○子どもの発見や考え、感動を共有し、活動の共同作業者となる。 ・図鑑 ・収穫かご ・調理本 ・調理用具	○異文化への興味から、好奇心・探求心へ広がるように環境を整えていく ○調べたり、作ったりするための材料やヒントを提供していく。 ・世界地図 ・絵本 ・衣装見本 ・カラービニール ・お菓子 ・かぼちゃらんたん	○ゲームを作る際は、子ども達の思いを引き出していく。 ○遊び方が説明できるように必要に応じて援助する。 ・ゲームに必要な材料 ・説明版	

月	12月		1・2月	
活動例	表現プロジェクト(生活発表会)	クリスマスしよう	郵便ごっこしよう	豆まきしよう(節分)
ねらい	○人前で表現する力を育てる(自信) ○いろいろな表現活動に親しむ ○協力することの大切さを知る	○クリスマスの由来に興味をもつ ○クリスマスにまつわる活動を通してクリスマス行事に期待をもつ	○年賀状が届くまでの仕組みに興味をもつ ○文字に興味をもつ	○おとなの姿を真似ることを楽しむ ○文字や数に関心をもつ
内容	○生活発表会について知る。 ○どんな出し物があるか知る。 ○練習したり小道具を作ったりする。 ○多くの人に見に来てもらうためポスターやチラシを作る。	○製作や準備などを体験し、クリスマスへの期待をもつ。 ○サンタさんへの願い事を考える ○ランチルームに大きなツリーを共同で作る。	○郵便が届くまでの流れを知り、郵便やさんごっこに取り組む。 ○友達に年賀状(手紙)を送る。 ○相手を思いながら手紙や年賀状を書く。	○メニユーやお金のやりとりを通して文字や数に興味をもつ。 ○店員、客などの役になりきり、やりとりを楽しむ ○商品など必要な物を作る。
環境構成	○できるよになったことを認め、自信を与えていく。 ○見てくれる方が喜んでもらうための方法を一緒に考える。 ○ポスター、プロプログラムの共同作成者 ・楽器 ・衣装、小道具づくりに必要な材料 ・ポスター ・ポスター	○協同作業者として一緒に取り組む中で、アイデアやヒントを出し合える場を作り、友だちの思いを引き出していく。 ・ツリー ・絵本 ・くつした型 ・色紙、色画用紙、リボン等 ・プレゼント	○一緒に調べたり、郵便局を見学したりするなど、教えるのではなく協働作業者となる。 ○手紙をもろう喜びを感じる。 ・絵本 ・手作りはがき、切手 ・スタンプ ・ペン、はさみ ・はがきづくりの素材	○目に見えらる物だけでなく、心の鬼に気づけるよう、鬼に対する恐怖心を与えず伝えていく。 ○一緒に調べることで伝統文化への興味に広げていく。 ・絵本 ・福豆 ・鬼のお面作りの素材(紙類、はさみ、ペン等)

月	3月	
活動例	お楽しみ会しよう	プレゼントを作ろう
ねらい	○様々な表現活動に親しむ ○表現活動、司会などを通して自分に自信をもつ ○文字や数、標識に関心をもつ	○小学生や地域の方など交流した方にプレゼントを作る楽しさを経験する ○イメージしたものを完成させるために自分なりに見通しをもつ
内容	○生活発表会の出し物を参考に自分たちでプログラムの決める ○同じ目的をもつ仲間同士で練習したり、小道具を作ったりする ○乳幼児を招待する。	○感謝な気持ちを込めて作る中で、素材を選び、作る過程を楽しむ。
環境構成	○子どもの自主性を尊重し、見守りながら、要求に応じて手助けしたりする。 ○必要な材料をそろえておく(自たちで考え、選ぶ) ・絵本(劇遊びのため) ・楽器 ・紙類 ・マジック ・小道具に必要な材料	○子ども達がイメージした物を表現できる方法と一緒に考えたり、見守ったりしてできた喜びを共感しあう。 ○喜んでもらえるも物を一緒に考え、作る楽しさ、あける喜びを共有していく。 ・リボン ・布 ・フェルト ・毛糸 ・クラフト紙 ・画用紙 ・ラッピング

Ⅳ おおぎみこども園危機管理マニュアル

1 本園の危機管理の基本方針

○ 危機管理の必要性

◎園は、園児が安心して活動し、保育教諭等が安心して教育・保育活動を行える安全な場所ではない。しかし、時として安全を脅かす事件・事故が発生する。そのような時に備えて適切かつ確実な危機管理体制を確立する。

○ 園の危機管理の目的

- (1) 子どもや教職員の生命や心身等の安全を確保すること
- (2) 危険をいち早く発見して、事件・事故の発生を未然に防ぐ。
- (3) 万が一、事件・事故が発生した時には、適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑える。
- (4) 事件・事故の再発防止、教育・保育の再開に向けた対策を講じる。

○ 本園の課題

- (1) 平成30年度まで2保育所は地域の中に、幼稚園は教育委員会と同敷地内にあり、非常時の場合は比較的大人の協力が得やすく連携しながら危機管理対策を行ってきた。しかし現園は敷地が広く、近隣に建物が少ないため不審者対応や大人の協力を得ることなどに不安がある。
- (2) 本園は、海面から7m、海岸線から約150メートルの埋め立て造成地に建てられている。そのため、地震及び津波発生の際には迅速かつ適切な対応を組織的に行わなければならない。
- (3) 乳幼児が在園しているので、乳児は一人で数名の園児の対応をしなければならない。

○ 課題を補う危機管理体制

- (1) 不審者の対応に関しては、来訪者について注意を払う。日頃から近隣の村診療所やコンビニなどと連携を図り、協力体制をお願いしておく。
- (2) 防災体制の充実、防災教育の充実、避難訓練などの日頃の備え及び地震及び津波発生、津波に関する情報があつた場合の村防災無線やテレビ・ラジオ・インターネット等から津波の情報を的確に把握し、園児の生命及び安全の確保を最優先した対応とともに、村災害対策本部、各区、消防警察・医療機関等との連携による対応が重要となる。
- (3) 職員おのおのが日頃から役割のシュミレーションを絶えず行い、災害発生時には、本部長(園長)の指示のもと、組織として迅速かつ的確に対応する。
- (4) 避難時には0歳児の存在に常に配慮し、訓練を利用し協力体制を充実させる。

○ 保護者・地域社会・関係機関との連携を図る上での留意点

- (1) 園の安全は、まず職員が積極的に守ることを基本とする。
- (2) 園の情報を発信し、開かれた園づくりに努め、職員一人一人が地域社会との信頼関係を築く。
- (3) 緊急事態が発生した場合に、保護者や地域の人に快く協力してもらえるよう、地域社会の行事にも積極的に参加するよう心がける。

2 令和7年度 防災訓練計画

月	日	曜	種別	ねらい	保育者の援助
4	18	金	基礎訓練 (火災) 消火訓練	○基礎的な知識を得る。 ○放送を静かに聞く。 ○防災頭巾の使い方を 知る。 ○「おかしもち」を知る。 ○非常ベルの音を知る。 ○保育者のところへ静 かに集まる。 ○放送の指示に従い避 難する。 ○「おかしもち」の確認 を知る	○集会形式で非常ベルの音を聞かせる。 ○放送による指示をよく聞くことを知らせる。 ○訓練計画及び役割分担の確認。 ○災害時備蓄品の確認。 ○非常用リュックの中身確認。 ○「押さない、かけっこしない、喋らない、 戻らない、近寄らない」の約束の確認。 ○調理室から出火の際の職員の行動確認。 ○各教室から園庭に避難させる。 ○各保育室より消火器を持ってくる。(消火係り) ※詳細は火災対応避難訓練実施計画参照
5	13	火	火災・消火	4月同様	4月同様
6	24	火	火災・消火	4月同様	4月同様
7	11	金	不審者対 応 消火	○不審者からの身の守 り方を知る。 ○4月同様	○不審者が現れたときの子どもへの対応、どのよ うに身を守るかを知らせる。(玄関から侵入) ※詳細は不審者対応避難訓練実施計画書参照
8	19	火	火災・消火	○「おかしもち」の内容 を理解する	○当番保育者の指示に従い、避難させる。 ○少数の職員での避難、誘導。 ○肉声での伝達。 ○防災物品の確認(各クラスのリュックも含む)。
9	10	水	地震 火災・消火	○放送を聞き、保育者の ところへ素早く集 まる。 ○机の下へ安全に避難 する。 ○2次被害(火災)から身 を守る。	○放送を聞き、保育者のそばに集まり、机の下に 避難させる。 - 机がない場合は部屋の中央に ○防災頭巾をかぶらせる。 ○遊戯室又は園庭に集まる。 ○地震後の火災発生に対する消火及び避難を開始 する。
10	23	木	火災・消火	○すみやかに園庭に集 まる。 ○火災予防、火の用心の 話を聞いて理解す る。	○放送の指示に従い園庭に子どもを集める。 ○消防署員の立ち会いの下、通報訓練を行い、消 火器の取り扱いの指導を受ける。 ○火災の恐ろしさを知り、避 難時の注意を聞く。
11	12	水	地震・津波	○緊急地震速報を聞き、 保育者のところにす みやかに集まる。 ○放送の指示に従い、避 難する	○緊急地震速報が入り、後に大地震がくることを 想定し、避難行動を開始する。(机の下にもぐる、 頭を守る) ○避難と並行し、防災頭巾・上履きの準備。 ○避難経路の確保。 ※詳細は地震・津波対応避難訓練実施計画参照
	18	火	火災・消火	4月同様	4月同様
12	12	金	不審者対 応 消火	○不審者からの身の守 り方を知る ○4月同様	○不審者が現れたときの子どもへの対応、どのよ うに身を守るかを知らせる。(園庭に侵入) ※詳細は不審者対応避難訓練実施計画参照
1	21	水	火災・消火	4月同様	4月同様
2	17	火	火災・消火	4月同様	4月同様
3	17	火	火災・消火	4月同様	4月同様 終了後1年の振り返りをする。

3 こども園における業務継続計画 (業務継続のための対応策)

※ 業務継続計画は、Business Continuity Plan の訳で BCP と略され、非常時、災害時の対応について計画するもので、災害時等の非常時を前提として業務を継続するために必要な業務を対策として講じるものです。

(1) 業務継続のための対応策

非常時に優先的に実施する業務を整理し、優先業務を継続できるよう、次の準備する。

- ① 体制構築
- ② 職員の人員確保
- ③ リスクの事前把握
- ④ ライフラインの対応策の検討
- ⑤ 備品の確保
- ⑥ リスク別のタイミングに応じた対策

(2) 業務継続計画 (BCP) の目標

- ① 利用する子どもの安全の確保・保護者の安全の確保
- ② 子どもの保育・養護を実施する職員の安全の確保
- ③ 施設機能の維持
- ④ 早期復旧・再開

(3) 災害時の優先業務

緊急事態発生時の対応は、おおぎみこども園危機管理マニュアルにおけるそれぞれの発生時対応マニュアルを基本とするが、次の場合を災害時の優先業務とする。

※ 保護者へ連絡がつかず、引き渡しができない場合における

災害時の優先業務

災害発生 タイムラ イン目安	発災時	発災当日から数 日	発災 3~5 日程度	発災から 1 週間程 度
判断基準	利用する子ど も・職員の安 全確保	生命・安全を守 る最低限の業務	生命・安全を継続 的に守る	ほぼ通常とおり
主たる事 業（保育 療育・相 談等）	施設にいる児童や保護者の保 護・利用する子どもがいない場 合は一時休止		施設や施設設備イ ンフラに被害があ る場合は、一時休 止	可能な業務から再 開
情緒安定	声掛け等に対応		体調チェック・声掛けに対応	
トイレ対 策 （排泄）	備蓄品や非常 用トイレで対 応	備蓄品や非常用 トイレで対応 おむつや汚物の 一時保管場所を 決め、対策する	継続して備蓄品や非常用トイレで対応 水道・電気・排水等が復旧ならば通常 とおり	
宿泊対応	備蓄品で対応			原則利用する子ど もがいないため対 応不要
防寒・避 暑対策	冷却グッズ（夏季）や石油ストー ブやカイロ（冬季）や備蓄品 の断熱シート新聞紙や布団等 （冬季）で対応		電気等が復旧なら、空調を使用 または備蓄品で対応	
引き渡し	利用中の児童の帰宅（引き渡し）の対応			引き渡しまで時間 のかかる児童や引 き渡しできない児 童の対応（関連機 関への引継ぎ）
食事	備蓄品で対応	備蓄品を活用し て提供（3食・ 定時でなくとも よい）	ガス等が復旧な ら、できる範囲で 調理したものを提 供	原則利用する子ど もがいないため対 応不要
相談事業	一時休止	一時休止	電気・水道・電力 が復旧している場 合は、頻度を縮小 して対応	可能な業務から再 開
医療体制	応急処置・必要に応じて救急搬 送 薬の必要な児童に配薬		利用する子どもが いる場合健康確認	通常とおり（必要 な場合に対応）
関連事業 （例：地 域事業）	一時休止	一時休止	一時休止	可能な業務から再 開（主たる事業が 再開した後対応）

V 子育ての支援計画

幼保連携型認定こども園には「認定こども園法」によって、在園する子どもの保護者だけでなく、地域の保護者に対する子育ての支援が義務付けられている。園にとって子育ての支援は重要な役割のひとつになっている。

本園では、どのような支援をどのような形でするのが望ましいか、家庭や地域の実態を把握し、園の理念や特色を生かしながら以下のねらい、方針、内容で保護者や地域と一体となって子育ての支援を進めていく。

在園児の保護者に対する子育ての支援

1 ねらい

【保育班】

○保護者とともに、子どもが健康に過ごせるように明るい気持ちで育てる。

【幼児班】

○保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じられるようにする。

2 方針

- (1)子どもの利益を最優先にして行う。
- (2)保護者が子育てを自ら実践する力の向上を目指す(保護者の自己決定を尊重し、励ます)
- (3)絶えず研鑽に努め、プロの保育教諭としての力量を生かすようにする。
- (4)地域の関係機関等と連携・協働する。
- (5)プライバシーを保護し、知りえた事柄の秘密保持に努める。

3 内容

- (1)保護者と相互理解を図る。(懇談会、保護者会の実施、各種たよりの発行)
- (2)保護者に教育及び保育への参加を促す。(保育公開、保育参加)
- (3)保護者同士をつなぐ。(保護者サークル活動の世話)
- (4)子育ての力をつける。(子育て情報の発信、育児講座、子育て相談の実施)
- (5)保護者のニーズに応え働きやすい環境をつくる。(預かり保育・一時預かり保育・延長保育等)

地域の保護者に対する子育ての支援

1 ねらい

- (1)子育ての知識や経験、技術を提供しながら、子どもの健全育成および子育て家庭の支援を図る
- (2)子育て親子が、気軽に、また自由に利用できる交流の場を設け、訪れた親子間の交流を深める取り組みを行う。
- (3)地域の子育て事情を把握し、子育ての情報の提供及び関連機関と連携、協力して地域支援活動に取り組む。
- (4)保護者同士が、助け合い、支え合う関係の中で、主体的に子育てが楽しめるような関係をつくる。

2 方針

在園児の場合と同じ

3 内容

- (1)一日開放(体験保育、園庭開放、子育て支援室、図書室開放)
- (2)保護者同士をつなぐ。(保護者サークル活動への誘い)
- (3)子育てに関する情報の発信、参加誘い(子育て情報の発信、育児講座、子育て相談会への案内)
- (4)園行事への誘い(年中行事等)
- (5)一時預かり保育の実施

子育ての支援計画(保育班 在園児向け)

おおきみこども園

ねらい
○保護者とともに、子どもが健康に過ごせるように明るい気持ちで育てる

		4・5月		6～8月		9～12月		1～3月	
行事	入園式 保護者会 保育参観 健康診断	水遊び 保育参観 子育て講座 懇談会 個人面談	夕涼み会 子育て講座 懇談会 個人面談	運動会 秋の遠足 育児講座 世代間交流 懇談会 個人面談 生活発表会	修了式 保護者面談 世代間交流 育児講座				
保育者の支援	○連絡帳や登降園時の保護者との会話を通して家庭での子どもの様子を知る。また、園での様子を伝え保護者が安心して園に預けられるよう信頼関係を築いていく。	○保育参観、個人面談等を行うことで、更に園での生活を理解してもらい、信頼関係を深める。また、保護者からあがった質問や不安点については、すぐにこたえていく。	○保育参観、個人面談を通して、子育ての不安をやわらげ、楽しさを伝えていく。	○保育参観及び面談を通して、子育ての不安をやわらげ、楽しさを伝えていく。	○新年度に向けた準備について、事前に丁寧に話し、不安なく進級できるようにする。				
	○子育ての悩みや疑問など、保護者の気持ちに十分に受け止め、保護者の立場に立った視点で丁寧に関わる。	○感染症が出た際には、保護者が理解して対応できるように、学級だよりや口頭、掲示で知らせる。	○健康面やアレルギー、家庭での過ごし方について連絡を取り合い、共通理解を図る。	○普段の食事や病気の時の食事などの配慮の仕方を、細かく具体的に話し合いつながり伝える。	○気候に合わせて衣服を用意してもらおうとする。				
0歳児	○寝返りやハイハイなど、発達に応じた遊びや関わりを紹介し、子どもの姿を伝え合い、園と家庭が相互に成長を喜び合える関係を築く。	○保育参観、個人面談を通して、子育ての不安をやわらげ、楽しさを伝えていく。	○保育参観、個人面談を通して、子育ての不安をやわらげ、楽しさを伝えていく。	○保育参観及び面談を通して、子育ての不安をやわらげ、楽しさを伝えていく。	○進級への不安などを受け止め、親子ともにケアしながら、一年間の成長を喜び、共感する。				

保 育 者 の 支 援		1 歳 児	2 歳 児
○育ちの記録(母子健康手帳)を通して、発達段階の共有・共通認識を図っていく。			○自分でやろうとしている姿を伝えながら、扱いやすい好ましい服を伝えて用意してもらう。 ○子どもの興味・関心を伝え、成長した姿を喜び合う。
			○自分でできていることを見守る大切さと共に、言葉でのコミュニケーションの大切さも伝えていく。 ○進級に向けての質問には丁寧に対応し、不安を取り除いていく。
○保育室が替わり、環境の変化が大きいので、送迎時に園や家庭での様子を伝え合い、信頼関係を築いていく。 ○快適で活動しやすい衣服、自分で着脱のしやすい衣服について知らせていく。 ○保護者会で、進級した様子、一日の生活の流れを知らせる。また、保護者の悩みを共有しアドバイスしていく。 ○自己主張をしたり、甘えたりして対応に困ることが増えていく年齢なので、その対応策をプリントで知らせたり一緒に考えたりしていく。 ○行動を先取りせず、自分でできる場面では納得がいくまでやる姿を見守る大切さを伝える。 ○歩く経験の大切さ、体づくりの大切さや方法を具体的に伝えていく。 ○子どもの話をゆっくり受け止め、正しい言葉で分かりやすく語りかける大切さを伝える。また、子どもとの会話のきっかけとなるような働きかけをする。 ○トイレトレーニングについては、一人一人の成長に合わせて、進め方や準備について家庭と連絡を取り合っていく。 ○友達への関心や関わりが増すことから、物の取り合いによるけんかが見られるようになるが、ある程度は成長過程での必要な経験として見守りながら、徐々に相手の気持ちも分かるように話していることを伝え、保護者の理解を得ていく。			○夏の疲れが出やすい時期なので、家庭でも十分に睡眠をとるなど生活リズムを整える大切さを知らせていく。

子育ての支援計画(幼児班 在園児向け)

おおきみこども園

ねらい

○保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じられるようにする。

保護者が子どもたちの成長に貢献し、子育ての喜びを感じられるようにする。		4・5月		6～8月		9～12月		1～3月																							
行事	入園式	保護者会	保育参観	春の遠足	水遊び	保育参観	育児講座	運動会	秋の遠足	生活発表会	保護者面談	お別れ会	卒園式																		
		保護者会総会を通して、学級ごとに保護者の顔合わせをする。	オリエンテーションや保護者会で園の運営方針や目標に対して理解を促し、協力をお願いする。	保育者や保育室、物の場所が変わることで感じる保護者の不安を受け止め、安心感がもてるようにする。	学級だより・保護者会などで、園での様子を具体的に知らせ、園生活に安心がもてるようにする。	学級だよりや子どもの作品等で、子どもの様子や成長を知らせ、共に喜び合えるような信頼関係を築き、保育者への理解・協力が得られるようにする。	保育参観を行い、子どもの様子を見てもらうことで、保育への理解を得られるようにする。	連絡帳を通じて家庭と連携、園児の様子を伝え合う。	子どもを肯定的にとらえる視点を保護者ももてるように、折に触れ子どもの姿を、肯定的な表現で伝えていく。また、保護者に対してもスモールステップで育児に対して認めたり共感したりする。	配慮が必要な子どもの就学相談を行い、専門機関からの情報提供なども行う。	子育て相談 子どものことや子育て等について気軽に話し合ったり、相談を受けたりする。	気候に合わせた適着の大切さなどを細かく知らせる。	体調の変化をこまめに伝え合い、情報を共有する。	基本的な生活習慣の形成・自己主張・友達との関わりなど、3歳児ならではの姿の特性を保護者に伝える。																	
	3歳児	○友達との関わりが増え、トラブルや友達関係において、疑問や心配が保護者の中に生まれることも予想されるので、様子を丁寧に伝え、いつでも相談にのる姿勢を示し、不安を取り除く。				○保育参観を行い、子どもの様子や保育者との関わりを見てもらい、子育ての楽しさやヒントを伝えるような内容を計画する。		○保育参観で実際の様子を子どもに見てもらい、疑問や質問など相談にのる。また、現状も伝える機会にする。		○保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○園行事(運動会・生活発表会)保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○保育参観で実際の子どもの様子を見てもらい疑問や質問など、相談にのる。また現状も伝える機会にする。		○園での様子や成長したところを伝え、子どもを一緒に喜び共感し合って、楽しく子育てができるようにする。		○乾燥による皮膚の荒れや風邪を引きやすくなるので、家庭でもケアをお願いをする。		○手洗い、うがいの習慣がくよくよにすすめる。		○大掃除の手伝いや新年のあいさつなど、年末だからこそできる経験について伝える。		○保護者会を通して、子どもの生活面・情緒面・遊びの様子や成長を一緒に喜ぶと共に、これからのことを意識できるように話す		○一人一人に合った箸への移行ポイントをつかんで共通理解の上、指導する。また、家庭でも箸への移行を進めてもらえるように伝える。		○箸の使用にあたり、その様子を各家庭と連絡を取り合い、進める。		○友達との関わりや、一緒に就学進級祝い会に取り組み姿など、3歳児クラスの発達を知らせる。	
	4歳児	○友達との関わりが増え、トラブルや友達関係において、疑問や心配が保護者の中に生まれることも予想されるので、様子を丁寧に伝え、いつでも相談にのる姿勢を示し、不安を取り除く。				○保育参観を行い、子どもの様子や保育者との関わりを見てもらい、子育ての楽しさやヒントを伝えるような内容を計画する。		○保育参観で実際の様子を子どもに見てもらい、疑問や質問など相談にのる。また、現状も伝える機会にする。		○保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○園行事(運動会・生活発表会)保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○保育参観で実際の子どもの様子を見てもらい疑問や質問など、相談にのる。また現状も伝える機会にする。		○園での様子や成長したところを伝え、子どもを一緒に喜び共感し合って、楽しく子育てができるようにする。		○乾燥による皮膚の荒れや風邪を引きやすくなるので、家庭でもケアをお願いをする。		○手洗い、うがいの習慣がくよくよにすすめる。		○大掃除の手伝いや新年のあいさつなど、年末だからこそできる経験について伝える。		○保護者会を通して、子どもの生活面・情緒面・遊びの様子や成長を一緒に喜ぶと共に、これからのことを意識できるように話す		○一人一人に合った箸への移行ポイントをつかんで共通理解の上、指導する。また、家庭でも箸への移行を進めてもらえるように伝える。		○箸の使用にあたり、その様子を各家庭と連絡を取り合い、進める。		○友達との関わりや、一緒に就学進級祝い会に取り組み姿など、3歳児クラスの発達を知らせる。	
	5歳児	○就学前の一年間の過ごし方について見通しがもてるようにする。				○保育参観を行い、子どもの様子や保育者との関わりを見てもらい、子育ての楽しさやヒントを伝えるような内容を計画する。		○保育参観で実際の様子を子どもに見てもらい、疑問や質問など相談にのる。また、現状も伝える機会にする。		○保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○園行事(運動会・生活発表会)保育参観を通して、我が子と他児の成長を感じてもらい、子育ての共有を味わえるようにする。		○保育参観で実際の子どもの様子を見てもらい疑問や質問など、相談にのる。また現状も伝える機会にする。		○園での様子や成長したところを伝え、子どもを一緒に喜び共感し合って、楽しく子育てができるようにする。		○乾燥による皮膚の荒れや風邪を引きやすくなるので、家庭でもケアをお願いをする。		○手洗い、うがいの習慣がくよくよにすすめる。		○大掃除の手伝いや新年のあいさつなど、年末だからこそできる経験について伝える。		○保護者会を通して、子どもの生活面・情緒面・遊びの様子や成長を一緒に喜ぶと共に、これからのことを意識できるように話す		○一人一人に合った箸への移行ポイントをつかんで共通理解の上、指導する。また、家庭でも箸への移行を進めてもらえるように伝える。		○箸の使用にあたり、その様子を各家庭と連絡を取り合い、進める。		○友達との関わりや、一緒に就学進級祝い会に取り組み姿など、3歳児クラスの発達を知らせる。	
保育者の支援														保護者面談 お別れ会 卒園式 育児講座 世代間交流																	
共通														○冬の健康や流行している感染症などの情報を知らせる。また、急に厚着にならないよう連絡を取り合う。薄着の効用を伝える。 ○園生活を通じて培われた人間関係は保護者にとっても子どもにとっても大切なものであることを確かめ合う。																	
共通														○一年間の子どもたちの成長を具体的に伝え、保護者と共に成長を喜び合い、安心して進級・就学できるようにする。 ○進級・就学についての連絡事項を丁寧に伝える。																	

子育て支援の計画(地域向け)

月 の 行 事	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園開放 情報発信	こいのぼり掲 揚式			七夕まつり 個別相談		保健委員会講 演会 世代間交流	親子ものづく り体験 運動会		お楽しみ会 生活発表会	育児講座	豆まき 個別相談	修了式
目 標	○子育ての知識や経験、技術を提供しながら、子どもの健全育成および子育て家庭の支援を図る。 ○子育て親子が、気軽に、また自由に利用できる交流の場を設け、訪れた親子間の交流を深める取り組みを行う。 ○地域の子育て事情を把握し、子育ての情報提供及び関連機関と連携、協力して地域支援活動に取り組む。 ○保護者同士が、助け合い、支え合う関係の中で、主体的に子育てが楽しめるような関係をつくる。											
内 容	○一日開放(体験保育、園庭開放、子育て支援室、図書室開放) ○保護者同士をつなぐ。(保護者サークル活動への誘い) ○子育てに関する情報の発信、参加誘い(子育て情報の発信、子育て講演会、子育て相談会への案内) ○園行事への誘い(年中行事等) ○一時期から保育の実施											

	親子の交流の場	子育てに関する相談	学びの場の提供	子育て親子間の交流
保 育 者 の 支 援	○親子の触れ合いタイム 保育園の園庭と子育て支援室や絵本室の施設を開放。施設内を使った親子の触れ合いや子育て親子の交流ができるようにする。 ○体験入園 在園児や保育者と交流できるようにする。(申込制) ○園行事への参加 園の行事に参加する中で、年中行事や伝統行事を楽しむ、園の子どもと交流できるようにする。	○場面相談 来園の際に日常の会話から、不安や悩みを聞く。 ○個別相談 相談室で、個別に相談を聞く。	○子育てトーク(座談会) 同じ悩みをもっている人が集まって話をする。場を提供する。 ○育児講座 専門家を招いた育児講座に案内する。 ○学びのコーナー(掲示板の活用) 今、関心のある書籍を紹介。子ども向けの食事やおやつレシピを作成して掲示する。 ○園だより、子育て情報の提供	○つくって遊ぼう(親子ものづくり幼児部) 身近な素材を使って、簡単につくれる物を製作する。 ○保護者サークル 保護者会主催のサークル活動に案内する。

